

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 前期教養学部理科一類・2年

参加プログラム: NTU Summer+Programs Summer +1 派遣先大学: 国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

国立台湾大学は 広い敷地内に 11 学院(学部及び研究科)・54 学系(学科)・96 研究所(専攻)・33 研究中心(研究所)と夜間部を擁し、3 万人を越える学生が通う総合大学です。

参加した動機

1 か月もの長い期間留学するのは今回が初めてだったので、日本に距離的にも環境的にも近く、比較的治安のよいことから、台湾のプログラムに魅かれました。また、昨年 1 年間中国語を勉強したので、さらに学習を深め、実際にどれほど通用するのか試してみたいとも思いました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
 特に煩雑な手続きはありませんでした。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
 台湾は、90日以内の滞在ならばビザは不要です。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
 特にしていません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
 クレジットカード付帯の保険に加え、損保ジャパンの海外旅行保険を利用しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
 特にありませんが、留学中に進学振り分けの志望先変更期間があったので、ネット環境は確認しました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
 1年生の時に IELTS を受験し、6.0 のスコアを有していました。必須ではないですが 6.5 の点数を持っていることが推奨されていました。
 出発前には中国語の教科書をざっと見直しておきました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
 Culture night というイベントの時に何か出し物を考えておけるといいと思います。
 また最後の farewell party のために、現地で買うこともできますが、フォーマルな格好を準備しておいた方がいいです。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
 ・Chinese courses・・・レベル別、少人数クラスで、リスニングとスピーキングを中心に中国語を学びました。クラスにもよりますが、予習・復習は必須です。中間試験や最終プレゼンテーションなどもありました。
 ・Exploring Taiwan・・・台湾の文化について学ぶ講義や小旅行です。個人のレポートとグループのムービーの提出を課されました。

②学習・研究面でのアドバイス
 最初のテストでレベル別に振り分けられるので、特に必要な準備はありませんが、基本的な文法と語彙力が多少あるといいと思います。授業はリスニングやスピーキングを中心に学びますが、授業だけで終わらず、台湾の学生とのおしゃべりや店の人とのやり取りで積極的に中国語を遣う訓練をした方が力がつくと思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等
 街では主に中国語を使いますが、現地の大学生や他のプログラム参加者とは英語でコミュニケーションをとることが多かったです。中国語か英語のどちらかが話せるといいと思います。また、英語がそれほど得意でない人にとっては、非ネイティブ同士で英語で会話するのはとてもいい練習になると思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学近くの寮が準備されていました。清潔で wi-fi 環境がととのっていて一人部屋なので居心地がよかったです。またラウンジで他の参加者と交流できるのも魅力的でした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気候は東京よりも少し蒸し暑く、日差しが強烈です。地下鉄やバスが安価で便利なので少し遠出をするときは利用しました。大学周辺にはコンビニやスーパーマーケット、レストランや軽食を売る屋台などがたくさんあって、毎日の食事には困りませんでした。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安はよかったです。自分は利用していませんが、近くに病院があり、利用している参加者もいました。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
プログラム自体の参加費(家賃など含む)が20万円弱、航空費が 5.5 万、食費や娯楽費など生活費は5万円弱でした。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
受給していません。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
放課後や週末は友達と大学近くでごはんを食べたり、地下鉄で出かけて観光や買い物を楽しんだりしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
派遣先大学の学生がスチューデントアドバイザーとして寮に来て、中国語の勉強のフォローをしてくれました。フィールドトリップにいくときの引率もしてくれました。また個人的に仲良くなった子は、週末一緒に旅行に行ってくれました。みなさん親切で、とても助かりました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
普段授業を受ける教室は新しくきれいな建物でした。立派な図書館や、学生は安く利用できるトレーニング施設とプールもありました。大学周辺だけでなく、大学内にも食堂、コンビニ、軽食屋がありました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
1ヶ月の間留学するのは初めての経験でしたが、成長できたというよりも、これからもっと頑張らなくてはという思いの方が強いです。英語も中国語ももっとうまく話せたらと歯がゆい思いをすることが多く、1ヶ月では語学力をそれほど大きく伸ばすことはできませんでした。一番よかったのは他のプログラム参加者と仲良くなれたことです。日本人と中国人の参加者が多かったのですが、グループプレゼンテーションの準備やフィールドトリップと通じて、とても仲良くなることができました。この関係が継続的なものになればよいなと思っています。
プログラム全体を振り返ると、中国語を学びつつ台湾の観光もできて、とても楽しいプログラムだったと思います。

②参加後の予定
また別のプログラムに参加してみたいです。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
台湾は日本に似ているところが多く、生活環境もよかったです。初めて留学にチャレンジしてみるにはちょうどいいと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):薬学部3年

参加プログラム: NTU summer+1 program

派遣先大学:国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 6.起業

派遣先大学の概要 台湾 No.1 の大学
参加した動機 語学力向上 国際交流 人脈作り
参加の準備 ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 諸々の書類を作るのが‘とても手間な上に、不備があって再提出となることがあるので早めに。 ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) ビザ不要 ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) なし ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 損保ジャパンの海外保険。プログラム終了ではなく帰国までの期間加入しないといけないようなので、プログラム後に旅行する場合には注意が必要 ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) なし ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) HSK6級。単語、作文中心に準備しておくといい。(中国語でレポートを書く機会があるので) ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど トイレットペーパー、シャンプー等、室内用スリッパ、PCの有線のインターネットケーブル(無線は寮のI階のみなので自室でやりたい場合)
学習・研究について ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 授業のパートとフィールドトリップは別で行われた。授業はコース別だが、フィールドトリップは中国語学習のコース以外の人も一緒なので、特に中国人と仲良くなる機会になる。中国語学習のコースとその他の中国人のためのコース混合のチームでドラマを撮影して、YouTubeにあげるという課題が面白かった。 ②学習・研究面でのアドバイス 授業はちゃんとうけるとかなりレベルが‘あがるはず’です。宿題予習などもちゃんとあります。最終日に、プレゼンテーションとレポートがあるので、早めにやっておくといいと思います。 ③語学面での苦労・アドバイス等 フィールドトリップで中国人と仲良くなったり、寮のロビーでおしゃべりしたりなどすると、中国語が飛躍的にのびます。授業のパートは全て中国語で、フィールドトリップ等は主に英語でした。アジア人じゃない人も多くいるので、英語で交流できるいい機会になります。中国人との共同作業でも英語使っていました。積極的に話せばいいと思います。中国語の学習が割と進んでいる人でも、一番上のクラスはひたすらディスカッションするクラスなので、良いブラッシュアップの機会になります。初めにクラスわりテストがあります。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

無線 LAN は1階ロビーのみ。シャワー、トイレ、ベッド、机、エアコン、冷蔵庫のみのシンプルな部屋でした。寮のすぐ近くにセブンイレブンがあるので必要なものは全てそこで買えます。卓球、ビリヤード、ランニングマシン無料で使えます。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

非常に蒸暑いです。寮と大学の間に必要なものは大概あります。コンビニ、薬局たくさんあるので、とくに不便は感じないです。大学付近の本屋さんのクオリティが非常に高いです。寮から大学までは歩いて20分ちょっとくらいです。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

夜中に出歩いても全く問題なかったです。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

飛行機は往復3万円程度。7万ほど両替すると贅沢に使ってちょうどいいくらいです。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

12万、JASSO と東大のもの

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末は遠出しました。授業外は、アクティビティ以外は自由で、最後の方になるとプレゼン準備やドラマ撮影がありますが、基本的に暇です。友達つくって自分で動けば有意義にできるし、部屋にこもっているとそれで終わってしまいます。自分次第！

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

NTU の Student Adviser の人たちが本当にすばらしいので、楽しく過ごせます。夜は Tutor Station を開いているので、宿題を教えてもらったり、単におしゃべりしたりできます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

大学内のワッフル屋さんとタピオカ屋さんがおすすめてです。中国語の教室棟にパソコンがあり、印刷もできます。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

中国語は圧倒的にのびます。英語ものびます。東大生だけじゃなくて関西の大学の人もいるし、さらには海外の大学生、中国の大学生も多くいるので、世界中に友達を作れました。外国語だけでなく、コミュニケーション能力もつきます。自分で動けば本当に楽しくなるし、動かなければそれだけです。割とほったらかしにされるので、友達つくって、積極的に街に繰り出すべきです。プログラム中に関わる人が全部で100人位いるので、もっといろんな人と話しておけば良かったと思いました。ただ、この1ヶ月間はとても有意義で気分よく過ごせました。

②参加後の予定

バカンスは終わったので、いつも通り勉強します。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

絶対に行くべきです。悩んだら最後は行かなくなります。東大生なんてたいしたことない、自分ってほんとにちいせえって気づくいい機会だと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

聴読中国語、WHY に答える初めての中国語文法書、3パターンで覚える中国語ネイティブ表現、中国語作文のための短文練習、中国の社会事情で学ぶ中級中国語、基礎漢語
この辺は良い参考書でした。(多分タイトル正確じゃないです。)

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学部 都市工学科 3年

参加プログラム: NTU Summer+Program1 派遣先大学: National Taiwan University

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

○5.民間企業(業界:建設) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

National Taiwan University(国立台湾大学)
旧台北帝国大学。1945年改称。台湾の最高学府。

参加した動機

海外大学が開始するサマープログラムに参加してみたかったから。
中国語・台湾文化について学習するというプログラム内容に惹かれたから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

Online Applicationを行ってから振り込みの連絡が来るまで多少時間があります。登録がきちんとして行われているか不安に思うかもしれませんが大丈夫です。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に行いませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学生協で推薦されている保険に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

夏季休暇中のプログラムであったため、特に手続きなどは行いませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英語は日頃から学習していたので特に準備はしませんでした。中国語については初心者だったので一通りのことは予習していました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

Cultural nightというイベントがあるので、そこでの出し物の準備をしておいた方がいいと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

Chinese language: 一日3時間のレベル別中国語クラス。予習復習が必要で、二回試験があります。

Exploring Taiwan: 週一回の講義とフィールドワーク、オプションの活動など。Final presentationとPersonal essayの提出が必須。台湾文化についていろいろと学べ、また異なるコース受講の学生とも交流できるためとても充実していました。

②学習・研究面でのアドバイス

講義終了後にnight marketにでかけたり、土日も観光に行ったりと想像以上に忙しいので、予習復習・課題の時間を上手にとることをお勧めします。

③語学面での苦勞・アドバイス等

英語がほとんど通じず、中国語も話せなかったため苦勞しました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学の国際寮に滞在。大学側が手配してくれます。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

朝晩は涼しいですが、かなり蒸し暑かったです。

大学周辺は MRT の駅もあり、また食事ができる場所も多かったのがかなり便利でした。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

台湾は治安もいいそうなので、特に気を付けたことはありません。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

支出:プログラムの費用(振込手数料なども含める)約 20 万円、航空費 6 万円、生活費 4 万円

レートの変動があり年によって異なるので参考までに。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO6 万円、東京大学 6 万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末はいろいろなところへ観光に行きました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

NTU の学生が様々な面でサポートしてくれました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

かなり充実していました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

四週間にわたる海外滞在はこれまでの海外経験の中で最長であり、また海外の大学が主催するプログラムへの参加も初めてで、このプログラムへの参加は自分にとって多くの面で挑戦でした。それに伴い渡航前は不安で一杯でした。しかし実際にプログラムが始まり、世界各国からきた人たちと、そして台湾大学の学生と共に過ごしていく中で、不安や緊張は吹き飛び、毎日が驚きと笑いに満ちたものとなっていきました。多くの友人と語り合い、笑いあい、そして別れを惜しみ抱き合い、泣きあったこの一か月は自分にとって本当に最高の思い出となりました。グローバル化・国際人材・日本の学生の内向き化など様々言われていますが、大切なのは特別なスキルでも卓越した語学力でもなく、ただ素直に喜び、楽しみ、慈しみ、悲しみことができる心を持つことだと改めて実感しました。

②参加後の予定

海外大学院への進学のため、TOEFL、GRE の受験勉強に励みたいと思います。また、中国・台湾にたくさんの友達が多かったので、中国語の勉強も続けていきたいと思っています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

中国語のレッスンと台湾文化の学習がベースですが、自分の好きなようにカスタマイズできるプログラムだと思います。フォローシステムもしっかりしているので、長期滞在が初めての人にもおすすめです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

過去の参加者の体験談。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: NTU Summer+Program1 派遣先大学: National Taiwan University

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

台湾国立大学、サマースクールプログラム

台湾大学内にて1か月間中国語と中国文化について集中的に学習するプログラムです。

参加した動機

参加した理由は3つあります。第一に、中国語を北京にて学ぶ機会があったのでさらに中国語の語学力を向上させたかったからです。第二に、私の選考は中国を含む東アジア関係についてだからです。第三に、台湾という環境の中で私が北京で学んだ中国の文化と比較することができるからです。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

手続きに当たっては、旅行保険の加入手続きを早めに済ませることをお勧めします。私の場合、保険の適用範囲内に台湾が明記されていなかったため、確認のために数日余計に時間を要しました。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの手続きはありません。台湾へ短期留学(私のように1カ月)の場合、ビザなしで入国することができます。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

大学の健康診断を受診することをお勧めします。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

保険は、父が加入している会社の家族保険を利用しました。そのため、具体的な保険内容を確認するために時間が少々かかりましたが、あらかじめ加入しているので、費用は掛かりませんでした。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にありません。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前に1週間ほど中国語の基本的な文法の確認を行いました。

⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

台湾のプログラムの中には各国の文化を紹介することがありましたので、日本の伝統的なもの—着物など—を持参すると思います。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

第一に、平日午後3時間程度の中国語の授業があります。第二に、台湾の文化を紹介する授業が週に1、2回各3時間程度用意されていました。第三に、台湾の各地を体験するフィールドワークが週に1-2回あります。

② 学習・研究面でのアドバイス

台湾大学での中国語の授業は、スピーキングとリスニング重視です。そのため、発音がいかに正確にできるのか、どのくらい相手の話すことを聞き取ることができるかが重要です。

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

アドバイスは、毎日チューターが寮に待機していますので、授業後もチューターと中国語の発音の確認や予習復習を手伝ってもらいたいと思います。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

宿泊先は大学の寮です。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大学周辺は学生がよく使う料理店が密集しているので、食事には困りません。交通機関はもっぱら地下鉄を利用します。お金は不足した際に銀行で両替できます。月の生活費はおよそ 12,000 台湾ドルでした。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特にありませんでした。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空機代がおよそ 3 万円、授業料・家賃・教科書代がおよそ 19 万円、食費が 6000 台湾ドル(およそ 2 万円)、交通費が 4,000 台湾ドル、娯楽費が 2,000 台湾ドルほどでした

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
奨学金は受給していません。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
週末は台北周辺の地域—ウーライ、北投、淡水など—を巡りました。また、学生とともにフィールドワークとして台湾北東部に滞在しました。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

平日はチューターが寮に駐在して中国語尾のアドバイスを提供してくれます。寮での生活は日本と対話がありませんでした不便を感じることはありませんでした。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

大学の施設は期間中、図書館、スポーツ施設が利用することができました。また、食堂は語学学習の建物の近くにありとても便利でした。大学のいたるところに Wifi が設置されており、インターネットへのアクセスが容易でした。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラムを通じて、中国語の会話に自信ができました。これまでは、中国語のライティングとリーディングに注力していたので、人との会話では自分の発音が正しいのか不安でした。しかし、先生やクラスメートらとともに中国語を聞き、中国語を口に出していく中で、自分の弱点を自覚することができました。また、その弱点を修正しながら、中国人に伝わるように会話する能力を培うことができました。そして、台湾大学で学んだことは、今後日本にいながらでも生かすことができると考えます。

② 参加後の予定

参加後は中国での国際イベントに参加して中国人と基本的な会話を行うことができました。また、今後は、東京にて勉強している中国人学生と中国語の勉強を行い、自身の中国語のレベルを上げていきたいです。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

台湾大学では台湾の学生と接する機会に恵まれています。ぜひ、台湾のコミュニティーに飛び込んで、中国語を勉強して、台湾の文化を積極的に取り込んでください

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

台湾の観光ブック、地球の歩き方

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):総合文化研究科博士課程1年

参加プログラム:+10 Summer Program-Translating Chinese: Methods and Practice

派遣先大学:国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

国立台湾大学は、周知の通り台湾最高峰の大学です。図書館をはじめ、優れた研究施設を伴うことはもちろん、世界各地から集まった優秀な学生が集う理想的な学問空間です。

参加した動機

私が参加したプログラムは、英語と中国語の相互翻訳理論を学ぶという内容でした。本プログラムは決して日本人学生のみを対象としないため、両言語を共に母語としない私にとってはハードワークであることが予想されましたが、今後の研究活動等において必ずや得るものが大きいと確信し、参加を決めました。また、台湾は自身の研究にも関係の深い土地であるため、一定期間滞在して見聞を深めたいというのも動機の一つでした。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東京大学海外留学国際交流情報「Go Global」のwebページでは、定期的にプログラム情報が更新されます。見落としの無いよう、こまめにチェックすることをお勧めいたします。あるいは、周囲の先生・先輩方に留学に関心がある旨を常日頃から伝えておけば、何か情報を教えて頂けるかもしれません。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

今回私の留学先(台湾)ではビザ等は必要ではありませんでしたが、早め早めの行動をとることをお勧めいたします。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

もしものために、薬一式(風邪薬、体温計、胃腸薬等々)をそろえておく心安心かもしれません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

インターネットで海外旅行保険を検索すると、価格比較もできて便利でした。

⑤派遣にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

所属研究科の窓口にて、短期留学中に取得した単位が東京大学でも認定されるかどうかの確認をしました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

私の参加したプログラムでは、TOEFL iBT 92以上、新HSK5級以上のレベルが求められました。スコアを持っていないとも、その他の方法で語学力を証明する手立ても無いことはないですが、やはりスコアを予め取得しておくことをお勧めいたします。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特にありませんが、強いて言えば変圧器やコンセント差し込み口変換器等を用意しておくことでしょうか。

留学先によって環境が異なると思うので、事前に現地の情報を調べることは必須だと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

翻訳理論概要、英中翻訳、中英翻訳が授業の主な内容でした。また、プログラム全体を通してグループで取り組む課題も出されました。最も印象に残っているのはこの課題に取り組んだことです。中国語の映像に英語の字幕をつけるという内容でしたが、なかなか苦労しました。また、アクティビティの一貫で国家図書館を見学することができたのも、印象に残っています。

②学習・研究面でのアドバイス

日本にいる時よりは余暇が多く取れると思いますので、読みたい本等を数冊持参することをお勧めいたします。

③語学面での苦労・アドバイス等

中国語・英語どちらも外国語ですので、その面では苦労しました。しかし、二つの言語を使えるということは、ある意味便利でもありました(英語で表現できない場合は中国語で、中国語で表現できない場合は英語で、というように臨機応変に対応できるからです)。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学の寮(太子學舎)に宿泊しました。奨学金を支給して頂くことができたので、費用はかかっていません。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

台湾の夏は大変蒸し暑いです。大学周辺はレストラン多数、食事には全く困りません。また、近くに地下鉄公館駅があるので、移動も便利です。お金に関しては、あらかじめ台湾ドルを用意していきましたが、足りなくなったときにはクレジットカードのキャッシュ機能を使いました(ただし、利子が多少かかるので、あまり使わないことをお勧めいたします)。

③危機管理関係(派遣先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

深夜に一人で出歩かない、ということは鉄則だと思います。また、台湾は自動車・バイクの運転が日本に比べると粗いので、道路横断の際は気をつける必要があります。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃・授業料・教科書代・家賃については、台湾大学および東京大学より支給して頂いた奨学金によって賄いました。食費・現地での交通費・娯楽費については、一ヶ月半5万円くらいで十分というかんじでした。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

プログラムに応募する際に、同時に奨学金を申請することができました。授業料・教科書代・家賃の現物支給という形でしたので、全体でいくら、という明確な金額は分かりません。また、東京大学においては、往復航空運賃を所属リーディング大学プログラム(統合人間学:IHS)によって支給して頂きました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末は台北市内観光(台北市近郊を含む)に出かけました。博物館が充実しているので足を運ぶことをお勧めします。台湾大学が用意してくれるアクティビティも多数あります。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

生活面・学習面ともに台湾大学の学生さん方がチューターとしてサポートしてくださいました。大変お世話になりました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館・ジム・食堂ともに充実しています。大学内ではWi-Fiが使えるので便利です。また、学生証を発行して頂けるので、図書館で本を借りることもできます。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他派遣を通じての所感

単なる語学留学というわけではなく、翻訳という行為そのものについて、また、中国語を通して中国・台湾文化を学ぶという貴重な経験をさせて頂きました。

授業もさることながら、参加者同士の交流も大変刺激的でした。世界各地より集まった学生たちは、それぞれ様々な背景を有しています。彼・彼女らとの何気ない日常会話は、往々にして、国際情勢(政治経済状況、あるいは文化等)に関する話題に発展することが多く、そうした経験をする事ができるということだけでも留学する価値があると強く感じました。特に、東アジア情勢が緊迫する昨今、韓国・台湾・中国大陸の学生たちと直接意見を交わすことができたのは最も大きな収穫でした。

②参加後の予定

中国語・英語の更なるブラッシュアップを心がけます。単なる語学学習というよりも、論文執筆、学界発表等を通して語学力を高めていきたいと考えています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

行こうかどうか迷ったらとりあえず参加してみることにする、というフットワークの軽さが大事だと、個人的には思います。出発前は様々な不安もありますが、帰国後は必ず、有意義な経験だったと振り返ることができると思います。良い経験は自信に繋がるし、辛い経験は次なる挑戦への原動力となります。

その他

①準備段階や派遣期間中に役に立ったウェブサイト・出版物

特に参照していません。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい派遣期間中の写真があれば添付してください。